



大館市立栗盛記念図書館となりました

新年度が始まり半月が過ぎようとしています。バタバタと忙しい中で時間だけが過ぎていく、というのはただの言い訳でしかないのですが、あいさつ回りと文書の検索だけで半月が過ぎようとしています。1日から図書館長として勤務しております保坂と申します。これからこのコラムの大半を担当させていただくことになりました。「図書館的的日常」がどういうものか把握できないままの半月でしたが引き続きよろしくをお願いします。

このコラムは「図書館を利用していない多くの方々に、図書館のことを知ってもらいたい、ぜひ来館してほしい、足りないところは要求してもらいたい」という前館長の思いからスタートします。その思いを引き継ぎ、栗盛記念、花矢、比内、田代のそれぞれの図書館からの情報発信でこのコラムを紡いでいきますので、温かく見守っていただけたら幸いです。

❖過去から現在へ、そして未来へ

皆さんにご不便をおかけしていた増築工事、松下村塾の移築工事も終わり、4日に竣工式が行われました。当日はお天気に恵まれ、多くの市民の方にもおいでいただき、本当にありがとうございました。竣工式後には、前回コラムで紹介のありました「おはなしの森」の皆さんによる読み聞かせが行われ、多目的室では楽しい空間を実感していただけたことと思います。

さて、改めて図書館ってどんなところでしょうか。

私自身、自信を持って図書館はこういうところと言えないのですが、図書館は社会教育施設で、生涯学習の場であり、この知的空間を使って(事業的には)何でもありの世界だと考えています。ただ、利用者数、貸出冊数が実績として評価対象になりますので、基本は守りつつ、でしょうか。

松下村塾が移築されて過去と現在がつながりました。未来を担う子どもたちの空間、多目的室、そしてラウンジが増築されて現在と未来がつながりました。松下村塾を模築した竹村吉右衛門翁と栗盛教育団の創設者栗盛吉右衛門翁の遺志を引き継ぎ、さてそれをどう形にしていくのか、それが課題といえます。市民の皆さんのお知恵をお借りしながら、形作っていったらとても素敵なことだと思うのは私だけでしょうか。

カウンター前には、大館市松下村塾移転記念展示「吉田松陰と幕末」の展示があります。皆さんのご利用をお待ちしています、ぜひおでかけください。図書館でも皆さんの利用のすき間を縫って活用していきたいと思っています。

❁今読んでいる本

前館長のように機知に富んだ文章が書けないので、最後は私の今読んでいる本の紹介を。箒木蓬生著「天に星 地に花」。これは「人に慈愛」と続く言葉、本編に出てきます。今の福岡県久留米市あたりが舞台の享保年間の物語。箒木蓬生の本は、気合を入れて読まないで潰れてしまいそうなくらい重い本が多いですが好きで読んでいます。この本は読み始めたばかり。人の生き方を教えてくれます。

やっぱり文才がないことを再確認しました、このコラムで。（保）